

メンバー寄稿

『 努力した人が報われる社会 』

L . 神山 佐市

今、気になることは働かない若者たちが増えていることです。仕事の選択肢は、汚い・きつい仕事は外し、土日は休みの会社などを選び、公務員・大会社に眼を向けています。せっかく就職が決まって働きだしても、社会になじめずに引きこもりになりニートになる若者が増えているようです。また、若くして生活保護の受給者も増えているようです。

昨年発生した東日本大震災の津波による被災で、財産とご親族を失った方、また原子力発電所の放射能漏れにより退避命令を受けて自分の家・土地に入ることが出来ない方が現在も大勢おります。生活をするために仕事を選ばず職を探しても就職先が無く、ふるさとに戻れるか、自分の将来が決められない状況が続き、生活設計が描けない人は希望を失い、頑張る意欲を失いかけています。

人は、家族がいて、住む家、学校、働く場所があり、ごくごく普通の生活が出来ることが幸せと思います、被災者の人が置かれている立場は言葉では言い表せないものがあります。

このような状況の時、与えられた生活環境の中で、自分で考え・行動して、将来の夢と希望を描き、目的の達成に向けて努力する事の大事さを問う教育が求められていると思います。

努力した人、頑張った人が報われる社会が身近なものとして必要と考えます。「地域から未来を創る」そのために私も自らの経験を活かし、地域から大切な日本を取り戻すために政治の力は必要と確信しました。強い日本を創るには個性のある精神的に強い人間形成をつくる教育は重要であります。

思いがけない出会いからユニバーサルデザインのまちづくりを思う

33 期会計 L.関野 兼太郎

鶴瀬駅西口でライオンズの献血事業をしている日のことでした。

白い杖を頼りにした、目の不自由な方が鶴瀬駅西口付近の一部未完成道路で立ち往生していました。

聞くと、「ここはどこですか？」と、方向感覚を失いどこにいるかわからなくなってしまっているようでした。鶴瀬駅まで行きたいと言うので肩を貸し、改札口付近まで案内しました。

今鶴瀬駅は東西口付近で区画整理が進み、綺麗な街並みが完成しつつあります。新しい道路ができ、私たちは何気なくいい街ができつつあると感じてしまっています。しかし、今まで慣れ親しんだ駅へのルートが変わっています。障がいを持っている人にとっては文字通り新しい街、初めての町になってしまっているのです。区画整理後の新しい街を全ての人々が享受してるわけではない事を実感しました。

身体の不自由な人もそうでない人も、小さな子供から高齢者まで、誰にとっても安心安全で快適に住めるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりと言葉がよく使われますが、今回の出会いで改めてその必要性を感じましたし、新しい街の情報提供をどう行っていくかということも大切なまちづくりであることを知ることができました。